

令和4年度第2回安城市総合教育会議

日 時 令和5年1月5日(木)
午後3時から午後4時20分
場 所 教育センター2階 会議室
出席者 市長 神谷 学
教育委員会 石川 良一 教育長
加藤 滋伸 教育長職務代理者
久恒 美香 委員
深津 敦司 委員
中村 沙織 委員

出席した職員 武智 仁 企画部長
宮川 守 教育委員会教育振興部長
加藤 浩明 教育委員会生涯学習部長
横手 憲治郎 企画部健幸=SDGs課長
澤田 敦至 教育委員会総務課長
稲留 雄一 教育委員会学校教育課長
津口 嘉己 教育委員会スポーツ課長
杳名 智和 企画部健幸=SDGs課課長補佐
平河 太郎 教育委員会学校教育課課長補佐
近藤 真行 企画部健幸=SDGs課企画政策係長
鳥居 享司 教育委員会総務課庶務係長
内藤 拓自 教育委員会スポーツ課スポーツ振興係長
安藤 拓巳 企画部健幸=SDGs課企画政策係主査
宇波 聖香 企画部健幸=SDGs課企画政策係主査

傍聴者 なし

次第

1 開 会

2 市民憲章唱和

3 あいさつ（要旨）

市長：教育委員の皆様には、日ごろから本市の教育行政、また新型コロナウイルス感染症対策について、ひとかたならぬご理解とご支援を賜り、この場をお借りして重ねて御礼を申し上げます。

さて、年末から年始にかけて、大河ドラマ「どうする家康」のPRが繰り返されている。俳優の顔ぶれも非常に豪華で、きっと視聴率が高く、それによってこの西三河地域は全国の注目が集まるのではないかという期待をしている。

本證寺で起きた一向一揆もドラマの中で取り上げられるようだ。歴史博物館でもその時期に合わせて2月4日から、家康と一向一揆というテーマで特別展が開催される。

教育委員の皆さんはもちろん、多くの皆様に特別展をご覧いただき、ドラマをより深く楽しんでほしい。

一方で、世界的にはコロナ禍がおさまっておらず、非常に不透明感の強い時代が続くのではないかと受け止めている。経済的なしわ寄せが家庭に及んで、子どもの教育にも色々な影響が出てくるのではないかと懸念している。そうならないことを祈るが、仮にそうってしまったとしても、安城市の財政で市民生活の下支えが出来るよう、これまで健全財政を堅持することを一つの目標として財政運営を続けてきた。

安城市の財政状況を見て、お金が余っているからどんどん使えという方もいるかもしれないが、ある程度地域産業や生活を守れるくらいの蓄えはある状況のため、万が一のときに活用して、なんとか良き市政運営、市民生活を持続していきたい。

そうは言っても、私の任期は2月14日までであり、あと1か月程で退任となる。新しい市長にそのあたりは託したい。

本日の議題は、部活動の地域移行についてである。また、それ以外の教育行政に対して、日頃から感じていることについて、皆様から率直なご意見をいただきたい。

教育長：日ごろは教育行政に本当にたくさんご尽力いただき御礼申し上げます。

昨日の幹部会で年頭の挨拶をしたときに、安城市出身の女子プロレスラーの中野たむ選手と、オカダ・カズチカ選手の話をした。たまたま昨日がIWGPチャンピオンベルトをかけた試合だった。残念ながら中野選手は敗れてしまったが、安城市の教育の中で育ってきた若い子たちが頑張っていると本当に応援してあげたいし、そういう頑張っている姿が色々な世代の人たちへの活力になっている。そういう循環が出来る世の中、地域の仕組みが出来るといい。

今回は部活動という一つの視点から、その世代の循環が起こるような、起爆

剤になると良い。最終的には国として進めていこうとしているコミュニティスクールに向かって、地域が地域を作っている、そんな循環が出来るというビジョンを描きながら、部活動はその中でどういう位置を占めて、どんな可能性を持っているかを考えていけると良い。色々な知恵をお借りしながら進めていきたい。

4 議 題

議題（1）部活動の地域移行について

学校教育課長、スポーツ課長説明

神谷市長：ただいまの説明に対してのご意見、ご質問等をいただきたい。

中村委員：私は中学時代にソフトボールを始めたところから人生が変わったことがあったため、子どもたちにとって部活動がいかに大切なものかは痛いほど感じている。

一つ質問がある。平日は今までどおり学校で部活動が行われ、休日は段階的に地域移行するという話だが、長期休みの部活動は継続されるのか。

学校教育課長：夏休みと冬休みは中学校のガイドラインとして定められており、現状通り実施していく予定だ。

久恒委員：私の子どもも部活動はすごく楽しく参加していた。この話を聞き、中学校、高校で地域の人と一緒にやれる部活動があるかもしれない、これまでやったことのないことへ参加する楽しさがあるかもしれないと思った。他の学校の子どもと一緒にやることで、良い部分がいっぱいある反面、エリアによって充実している場所、地域のスポーツ団体が近くにない場所があると、同じように部活動がやりたい子たちが続けられないのではないかという不安がある。

最近、スポーツ吹き矢は色々な公民館で行われているが、高齢者になっても続けられるスポーツは、運動する機会をずっと持ち続けることができる。

また、中学生向けの公民館講座が増えてきているが、これからも増えていくと良い。

加藤職務代理者：教える人の確保が一番難しい。その中に先生たちにも入ってもらわないと厳しい。先生には希望を取られるということだが、希望の種目は限られているのか。

学校教育課課長補佐：全国大会のあるものを全て聞いている。

加藤職務代理者：心配なのは、本来教員の業務負担軽減ということで出てきた話のはずだ。教員にアンケートをとって、負担に感じない先生はやってくださいということだが、文科省の趣旨とは違うのかもしれない。ただ、負担に思っ

ている先生もいるが、やりたいという先生もいる。そういう人の気持ちも大事にする必要がある。こういうアンケートをやるときに気を付けなければいけないのは、このアンケートを踏み絵にしてはいけないということ、そこは配慮してほしい。平日の指導は先生、土日のクラブ活動にも先生が入ってくるとなると、土日は学校ではないということで、責任はどうなるか。

スポーツ課長：地域のクラブ活動であれば、加入の際に保険に入ってもらおう。

クラブチームならそこが責任を持つ。市が主催であれば市と考えている。

加藤職務代理者：責任については明確にしておく必要がある。もう一点、教員の兼職、兼業についてだが、報酬の有無に関わらず届出してもらおうということか。

学校教育課長：そのとおり。

加藤職務代理者：負担に感じない先生がやっていただけだと思うが、教育委員会としても配慮をしてもらえれば良い。今後より良い方向に行けば良いが、今日聞いている限り方向性としては良いと感じている。

深津委員：生徒の観点から見ると、目標が必要だ。例えば中学校の市の大会や県大会、全国大会は引き続き行われるのか。

学校教育課長：協会への加入が条件となることもあるが、全国大会は実施される。市内の大会は今まで通り中学校区単位で行う。

深津委員：兼業の場合、けがの補償は。

スポーツ課長：現段階では、クラブ側で補償すべきと考えている。

深津委員：クラブ側が嫌がらないか。そのための兼業届出はないのか。

スポーツ課長：他の指導者と同様に考える。

学校教育課長：兼業届は他の業務に就くことを良しとするものであって、そこまで補償するものではない。

深津委員：それではクラブに負担がかかる。保護者等ほかの指導者についても市で負担できないのか。

スポーツ課長：市が約80団体全てを負担するのは厳しいのではないかと。保護者や有志が設立したクラブチームで中学生も受け入れるところが47団体ほど手を挙げてくれている。指導者も児童生徒も保険に入ると聞いているので、そちらで入ってもらおう形になると認識している。

加藤職務代理者：活動場所の確保のところ、小学校が入っていないのはなぜか。

スポーツ課長：小学校と中学校では貸し出す条件が違う。小学校は地域の運動する場所となっている。それに対して中学校は市内全体の運動する場所となっている。そのため、今回は中学校で考えている。

教育長：貴重なご意見をいただき、御礼を申し上げます。私は部活動を指導して

きた側で、つい最近までは部活動も学校教育の一環という述べられ方をされてきた。授業中はなかなか活躍の場がない子、家庭で苦しい子でも、部活動は一生懸命頑張っているなどか、人間関係で苦しい思いをしている子でも、部活動のメンバーの一人としてその子を見たときに、違う形で活躍の場を与えてあげられたり、スポットを当ててあげられたりした。指導者を学校の先生がやっているから、子どもたちのある部分を伸ばしてあげられたり、自信をつけさせてあげたり出来たところがある。親も、先生が指導者だから部活動に入れさせたいという思いがきっと根底にはあるので、難しいのはそういう思いとぶつかっていくところだ。押し付け合いは避けたい。

子どもの観点でいうと、子どもがなぜ部活動を一生懸命になるか、それは試合に出たいとか、全国大会に出たいとか、その子によって違う。学校や地域によって不公平感が出ると非常に苦しい。

我々は何年もずっとこの問題について考えているので、色々な情報を集めたり、イメージも自分なりに持って話せるが、この話を今から聞く人たちにとっては、一部の情報でイメージをして議論することになっていくので、なかなか理解しあうことが難しいと考えている。しかし、将来を見て、子どもたちが輝くために、自分事として何が出来るのかという観点で考えていく必要がある。色々な知恵や人の力を借りて進めていきたい。

市長：今後、色々なご意見が出てくるだろうが、自分たちの考えをしっかりと固めて、こういう課題はあるけどとりあえずこういう形でスタートするというのを決めていってほしい。

生徒の家庭の状況で道具を買うのが難しい場合、本人の希望する部活動に入れないことも考えられるが、保険料も含め、その場合は就学援助で賄うことが出来るのか。

学校教育課長：家庭の事情で種目を選ぶ子はある。部活動費として徴収している場合は補助するが、安城市は徴収していないため、補助は特にない。

市長：保険料はいくらくらいなのか。

スポーツ課スポーツ振興係長：スポーツ安全保険というもので、年に子どもが1,000円弱、大人が2,000円弱ときいている。

5 その他

6 閉 会